



だんパラスキー場のロッジにある染谷さん製作の水車。

引き戸を取り付けて完成した「置床」。どこにでも移し置ける床の間代わりとして、注文も多い。



木材を正確に切り、釘は一切使わず組み立てていく。



壁一面に並んだカンナは、大きさや形など様々で、品物や用途に応じて使い分けられる。道具は仕事の内容に合わせて自分で作ることもある。



建具職人の伝統を受け継いでいる染谷建具家具製作所。建具の世界では、寸法やバランス、四季に応じた木の選び方など、受け継がれている伝統が数多い。欄間の寸法一つをとっても12カ月を表し、1尺2寸としているなど、すべてに意味があるという。

染谷さんは、27歳で建具の世界に入った。ものをつくる仕事にあこがれ、酪農業から一転、業界では「10年遅い」入門だが、師匠の技術を目と体で覚え、腕を磨いた。昭和40年に独立。身につけた技術を駆使して、あらゆる家具づくりに精進。正確な仕事に努め、発注者のイメージどおりの作品づくりに励んだ。

日々の努力は、伝統技術の継承にも及ぶ。「職人の技が受け継がれてこそ、伝統技術。若い人たちに身につけてもらう

# ものづくりのまち むろらん

シリーズ20

家具に息づく  
匠の技と伝統

## 染谷建具家具製作所 (本輪西町)



「建具職人の伝統を受け継いでいる染谷建具家具製作所。建具の世界では、寸法やバランス、四季に応じた木の選び方など、受け継がれている伝統が数多い。欄間の寸法一つをとっても12カ月を表し、1尺2寸としているなど、すべてに意味があるという。」

「ことも大切な仕事」と染谷さん。これまで、数多くの建具職人を育成し、技術の普及に力を注いできた。染谷さん自身も建具以外の職人らと交流を図り、さらなる技術の向上に努めるなど、70歳の今も創作意欲は衰えることがない。

染谷さんは、子供用の木製そり、町内会のみこしのほか、白鳥大橋記念館（みたら）にある水車も製作。培った技術は地域にも貢献している。

「技術を向上するには、聞く耳を持つことが大切。今もこれからも毎日が勉強だよ」。熟練した匠の技は、謙虚でひたむきな姿勢によって支えられている。

染谷さんは、平成9年に市の生活文化伝承者表彰、12年には室蘭市内初の日本建築士会連合会の伝統的技術者表彰を受賞している。



### 人の動き (12月末現在) は前月比

・人口	101,256人	( - 46人)
男性	48,837人	( - 30人)
女性	52,419人	( - 16人)
・世帯	47,506世帯	( - 23世帯)



### こちら幸町(編集後記)

今年の干支は申。12年前は、反省するサルが人気を博し、サルをマネして随分反省した。あれから12年。今年は、反省をバネにサルの鳴き声「キー」を鍵にかけて改革の「キーワード」を探りたい。(ほ)

ホームページ版の広報むろらんが今まで以上に、見やすくなりました。ホームページ版広報むろらんには、インターネットまたは、市内の公共施設で見ることができまので、ぜひご覧ください。(裕)

恥ずかしながら、これまで図書館から本を借りたことがない(書店で買っているわけでもない)。しかし、図書館が随分と利用しやすくなる。これを機会に、「よむよむカード」を手に入れようかな。(ま)

取材中、写真撮影のため近くにいた子に協力を依頼。と、(あ)さんですよ、?とお母さんに言われてビックリ。数年前までよく知っていた子だった。子供の成長は早いな。自分の1年も早いけど。(あ)